

平成 29 年度 近畿大学工学部情報学科 第三者評価会議 会議議事録

日時／場所：平成 30 年 1 月 15 日（月） 15 時 00 分～17 時 10 分 ／ 学科会議室（G251）

出席者：

委員長 一般社団法人広島県情報産業協会 会長 有馬 猛夫 様
委員 株式会社マネーフォワード 篠田 健 様
教員 田中学科長，高山教授，徐教授，片岡准教授，木村准教授，中村講師，山元講師

議事次第：

1. 開 会
田中学科長 挨拶
2. 議 事
 - (1) 教育プログラム説明
 - (2) 学科施設見学
 - (3) 教育プログラムの評価
3. 閉 会
田中学科長 挨拶

配付資料：

番号	内 容
1	第三者評価会議議事次第
2	配付資料一覧
3	教育プログラム説明資料
4	工学部学生便覧（平成 29 年度）
5	情報学科 授業計画（平成 29 年度）
6	基礎教育科目・特修プログラム 授業計画（平成 29 年度）
7	J07-IS カリキュラム概要
8	J07-IS 情報処理学会発表資料
9	JABEE 認定基準（共通基準）
10	JABEE 認定基準（個別基準）
11	エンジニアリング・デザイン教育への対応
12	カリキュラム改編 WG 議事録（平成 27 年度第 1～5 回）
13	カリキュラムツリー（工学部情報学科情報システムコース）
14	情報学科・専門授業科目新旧対照表
15	平成 30 年度学習・教育到達目標との対応
16	学部案内

1. 開会

田中学科長より、開会の挨拶と、配布資料 1 に基づく本会議の説明がなされた。
本会議の説明は、背景、目的、カリキュラム改定と JABEE 概要、本会議主旨であった。

2. 議事

(1) 教育プログラム説明

片岡准教授より、配布資料 3 をベースに、配布資料 4-15 を用いて、教育プログラムの説明がなされた。

大まかには、「カリキュラムについて」、「到達度の評価」、「卒業生の進路」の 3 つについてであり、概要は以下のとおりである。

1. カリキュラムについて

- (a) 情報学科のカリキュラム作成方針 (配布資料 3, 4, 5)
- (b) 情報学科のカリキュラム変遷の経緯 (配布資料 3: P5)
- (c) 情報学科のカリキュラム改定のベースである J07-IS の概要 (配布資料 7, 8)
- (d) JABEE の審査手順 (口頭説明)
簡易審査→認定基準に沿ったカリキュラムであるかを学科内で確認→審査員へ送付→審査員による調査後、判定
- (e) カリキュラム改編の概要と経緯説明 (配布資料 3, 11)
- (f) カリキュラム改編の具体的内容説明 (配布資料 12, 13, 14)
- (g) 学習到達目標と JABEE の基準の対応についての説明 (配布資料 9, 10, 15)
- (h) エンジニアリング・デザイン教育について (配布資料 11, 配布資料 3: P10)

2. 到達度の評価

学生が到達すべき最低基準 (ミニマム) を IT パスポートとして教育を行っている。

3. 卒業生の進路

情報システムコースの学生の進路内訳を配布資料 3 : P14 に基づき説明
卒業生のアウトプットが保証されている。

補足：高山教授は授業、徐教授は所用のため、教育プログラム説明後退席

(2) 学科施設見学

本学科の管理施設である教育支援システム室 (G159)、企業情報システム演習室 1 (G268)、企業情報システム演習室 2 (G367)、経営情報システム研究室 (G356) の見学とその運用方法について説明し、当該施設で行われる演習・実習授業を紹介した。

(3) 教育プログラムの評価

(1), (2)を踏まえ、主に「カリキュラムの改編内容」、「エンジニアリング・デザイン教育への対応」、「到達度の評価」について、以下の通り評価およびご意見を伺った。

1. カリキュラムの改編内容

- ・ J07-IS を前提にカリキュラム改編を行っている点は問題がない。
 - CS や IT と異なり、ユーザに近いところであり、技術の適用を学ぶため、現在社会で必要とされる IT 人材に適した内容を含み、着眼点としてよい。
 - 認定校が少ないため、独自性にも繋がる。
 - J07-IS をベースとして適切にカリキュラムが作成されている。
- ・ J07-IS のモデルカリキュラムは情報技術の応用的な内容を含むため、時間が経って経験を積むと実感とともに内容が想起され、仕事に活かすことができる。
- ・ 情報セキュリティは世界的、国家的にも重要なので、重点的に取り扱う方がよい。
 - 学科としても認識しており、情報セキュリティ科目の充実も視野に入れている。
- ・ プログラミングは、Ruby や Python のような企業で扱われる言語を視野に入れて

もらったほうがよいという意見があった。

- ・制度上困難であるが、時流の変化に合わせ、カリキュラムも流動的にできたほうが良いのではないかという意見も上がった。

2. エンジニアリング・デザイン教育

- ・こういった科目を充実させていき、決まりきった課題の解決ではなく、自ら問題を設定したり、解決したりする能力を育てることは重要である
- ・対応する授業は上記教育に準拠した授業内容になっている。IT人材として自分自身で学びながら成長していける人材を増やすために、世の中になくものを作ることを課題としてあげるような授業は有効である。
- ・SAP社のERPシステムのような高度なシステムを体験し、一通り原理を学ぶことは、社会に出て活躍できる人間になる上で重要かつ有用である
- ・対応する科目を充実させていき、将来を見据えたモノ作りができる人材を育成してほしい
- ・情報システム開発演習を見学した感想として、「学び方を学ぶ」という点にも踏み込んでほしい。
- ・イノベーションを起こせる人材を育てられる内容にしてほしい。
(上記の2項目をまとめ)
- ・「情報システム開発演習」で取り上げている予約管理システムのような世の中にある仕組みを学ぶのではなく、イノベーションを起こせる人材を育てられる内容にしてほしい。

3. 到達度の評価

- ・資格認定主体のカリキュラムではなく、卒業生が卒業して企業で活躍でき、認められるかに主体をおいたカリキュラムにすべき
(補足：上述のエンジニアリング・デザイン教育を重視した教育プログラムを実施しており、情報技術者試験等の内容は、あくまで知識習得レベルを確認するための目安として利用している旨、教員側より説明があった。)
- ・本学科としては、資格はあくまで基準とし、カリキュラムをIS基準にし、エンジニアリング・デザイン教育を取り入れ自身で考える科目を導入することで、この解決を図ったものに改定している
- ・到達基準のミニマムがITパスポート試験レベルに設定されている点について、
 - 学科の中の一つの目標としては良い
 - ただし、基本情報技術者試験レベル以上であることが望ましい
 - あくまで詰め込み型の知識なので、企業側としては余り重視しない
 - 「学び方を学べる」、「様々な技術やユーザの要求、費用対便益を考慮する複合的な思考ができる」人材を育てることをより考慮してほしい

3. 閉会

田中学科長より、閉会の挨拶

学び方を身につけることの重要性と、知識を身に着けた上で発展的な内容を身につけることの重要性を認識できた。また、FD会議などでも活発に議論する必要があることであることが確認された。

以 上

平成30年1月15日

確認者：田中一基

記録者：山元 翔

議事録編集：木村有寿

片岡隆之